

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ことばの教室そらまめキッズ谷山		公表日		R8年 2月 28日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		パーティションでの仕切りをしています。広いスペースもあり、運動などができるスペースも確保されています。自立して行動できるように、構造化がされています。	適宜再構造化に取り組んでいくとともに、環境整備を継続して参ります。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		スタッフの人数に応じて、集団で組むなどの工夫をしています。	今後も状況やねらいに応じて配置等を変更しながら取り組んで参ります。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		視覚支援を行っています。構造化を行い、適宜アップデートしています。	今後も適宜再構造化を図っていきます。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日清掃を行っています。	施設の老朽化もあり、清潔感が感じられないところもあります。細かい部分では中々掃除が行き届かず埃がたまっていることもあるため、清掃を行き届かせるよう取り組んでいきます。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		子どもの特性に応じ個別の場所を提供できています。	特性に応じた部屋を提供しつつ、一般化にも取り組めるよう環境を整えていきます。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		イクルスの研修を受け、業務改善に取り組んでいます。	支援の質と業務スピードの双方を高め、適切に担保できるように工夫していきます。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		意向を把握し、スピード感を持って対応できるように心掛けています。	十分に把握できていない職員もいるため、スタッフ間で情報を共有し連携を図っていきます。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		定期的話し合いが行われています。ケア会議や昼礼、終礼などで情報の共有や相談の場が設けられています。	話し合いを大切にしつつ、時間配分にも留意し効率的に情報共有が進められるよう工夫していきます。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	公開療育を行っています。自治体による指導監査を受け、業務改善につなげています。	十分に把握できていない職員もいるため、スタッフ間で評価結果を共有し、業務改善につなげていきます。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		定期的な全体研修や事業所内の研修があります。申請により希望する外部研修を受けられる機会も多いです。	各自が公平に研修を受ける機会があるように、アンケートなども取り入れています。提供する支援内容に個人差がないよう、知識の共有やスキルの研鑽に励んでいきます。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			現在作成中です。HP等にも記載していきます。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		支援後のフィードバックや定期的な事業所内での相談などで情報の共有を図っています。	今後も保護者との連携を密に取りながら進めていきます。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		スタッフ間での会議の場があります。様々な職種専門性を活かした支援になるように、計画の作成や日々の支援を行っています。	利用人数増加に伴い、ケア会議の時間が十分に取れないことがあるため、時間の活用を進めていきます。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		支援計画をスタッフが確認しやすいファイルに提示することで、職員の目に入りやすくなっています。	今後も計画書をもとに、計画に沿った支援を進めていきます。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		MASやAF分析等を行っています。		

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		全ての項目を記載しており、ねらいに沿った支援が提供できるよう努めています。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		スタッフが日々子どもの情報交換を行いながら立案しています。	今後より一層チームでの立案に注力していきます。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		週ごと月ごとの活動計画を立てることで、固定化しないように努めています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせで児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		集団での狙いを決め、共有して支援できています。子どもの状況に応じて、活動の内容や人数を調整しています。個別支援で獲得したスキルを2～3人の小集団の中でも発揮できる機会を作っています。	個々の発達に合わせた支援の提供を行っていきけるよう、柔軟なプログラム作成を行っていきます。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		話し合いを意識して日々支援に取り組んでいます。	書類のサインを頂く際に声かけをしておらず、次週になることもあるため、役割の確認を徹底していきます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		昼礼や終礼等で報告や相談などの場を設けています。	時間が長時間化してしまうこともあるため、時間を決め業務改善に努めています。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日々支援内容を細かく記載しています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的な見直しを行っています。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		管理責任者を中心に、利用児をよく理解した担当者が出席しています。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		紹介状の作成やリハビリの内容について連絡を取ることがあります。	医療機関との連携が少なく、今後連携を深めていくのが課題です。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			全併用先と連携が取れているわけではないため、今後も相互理解を深め、計画的に連携を進めていきます。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		特に吃音などについては、先生宛に手紙を書くなどして情報共有を行っています。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		研修案内などを頂いています。	研修の参加はできていないので、今後積極的にセンターと連携を図って参ります。	

	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○	併用利用しているお子さんは機会を確保できています。	事業所としての関わりはないため、今後法人として検討して参ります。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	○	支援後のフィードバックを口頭とHUGアプリで行なっています。また、定期的に事業所内相談も実施しています。	今後も事業所内相談を定期的実施するとともに、保護者が相談しやすい環境づくりにも努めていきます。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	そらふあむの開催や講演会などを行っています。	仕事を抱えている保護者の方には参加しにくい時間帯もあるため、今後開催日時の検討を行ってまいります。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○	見学时、契約時に説明を行っており、また変更時にも都度説明を行っています。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○	定期的に事業所内相談を実施し、話し合いの機会も多く設けて意向を確認しています。	今後も意向をしっかりと把握したうえで、作成を行ってまいります。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○	対面で説明を行って同意を得ています。	アプリからもいつでも内容を確認できる体制を今後も継続して参ります。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○	定期的に事業内での相談(家族支援)を実施しています。	今後もご家族様に寄り添った支援が提供できるよう取り組んで参ります。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○	ペアレントトレーニングやイベント等で、他の家族との交流の場が設けられています。	イベントに兄弟児も参加し交流の機会はあるものの、頻度としては少ないため今後も機会を設けていきます。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○	苦情があった場合、すぐにスタッフへ周知し対応策を検討しています。	苦情の件数が少ないため、拾っていないご意見もあるかもしれないことから、意見を言いやすい環境や取り組みを検討して参ります。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○	SNSを通じて情報を発信しています。	今後も継続して参ります。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○	カギ付きの保管庫で管理しています。	今後も取り扱いに留意して参ります。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○	PECS®や視覚支援を用いています。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		地域の方との関わりは少ないため、今後開かれた事業所運営を図って参ります。
非常時等の対	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○	マニュアルを事業所待合に掲示するとともに、地震、洪水、防犯、引き渡し訓練を実施しています。	
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○	防災グッズを手に取りやすい場所に備えているとともに、訓練を定期的実施しています。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○	てんかん発作については非常時の対応も含め確認しています。	風邪薬の内服や予防接種については把握しきれていない面もあります。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○	食事の提供はありませんが、食品を使用する際にはアレルギーの有無と保護者の許可を得て使用しています。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○	安全計画を作成し、AEDの訓練についても全職員が受講しています。	

応	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		訓練を定期的実施し、結果について保護者へ周知を行っています。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		全体での情報共有、事業所内で再発防止のための話し合いなどの機会があります。	再発防止策を講じた後の、振り返りの評価は不十分なため、今後積極的に実施していきます。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		全体研修の機会があります。	今後も早期発見に繋げられるよう取り組んで参ります。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		当事業所に該当の利用児はいませんが、研修の機会があり該当児がいる場合に必要対応方法の理解はしています。	